

レファレンス コーナー 仏教と開発

石井美千子

「開発」という言葉は、仏性に目覚め、悟りを開くことを意味する仏教用語「開発」（かいほつ）に由来している。西川潤・野田真由編『仏教・開発・NGO—タイ開発僧に学ぶ共生の智慧』（新評論 二〇〇一年）は、西欧的近代化論に基づく、国家による「外発的開発」から、心の開発をとおして民衆による「内発的・自律的な人間中心の開発」をめざすタイ開発僧の思想と活動を、開発から開発へのパラダイム転換であるとし、そこに仏教を超えて、「地球社会全体の共生や真の発展のありかたに対する普遍性のある示唆」を見出す。本書は、開発僧の思想や実践を様々な側面から考察している。

思想と実践（西川編『アジアの内発的発展』藤原書店 二〇〇一年）は、この二人の学僧の思想を解説する。ほかにブッタタートについては、右記の『仏教・開発・NGO』に収録されているスラック・シワラック、野津幸治論文や、伊藤友美「現代タイ仏教における『ダンマ』の理解と実践—ブッタタート比丘の思想」（『東南アジア 歴史と文化』No.26 一九九七年）がある。

タイ農村研究の草分けであり、近年はタイの仏教書の翻訳も手がけている野中耕一氏は、仏法に基づく開発に関する一連の文献を紹介している。ピッターヤ・ウォンクーン著・野中耕一編訳『村の衆には借りがある—報徳の開発僧』改訂増補版（燦々社 二〇〇一年）には、東北タイの農村開発NGO活動の中心的存在であるナン和尚の理論と活動が描かれている。講演者・プラタマ・ピドック・編訳者・野中耕一『自己開発—上座部佛教の心髄』（タイ東京堂書店・販売 二〇〇四年）は、パユット師の思想を翻訳したものである（プラタマ・ピドックは、パユット師の欽賜名）。

カンボジアの開発僧に関する数少ない一冊が、清水和樹『カンボジア・村の子どもと開発僧—住民参加による学校再建報告』（社会評論社 一九九七年）。新たな報告が望まれる。仏教思想に基づいた社会開発運動としてつとに有名なのがスリランカのサルボダヤ運動である。その歴史

は一九五八年にA・T・アリヤラトネ博士が始めた農村自立運動にさかのぼる。サルボダヤとは、すべての人々の目覚めを意味する言葉であり、この運動が目指しているのは、伝統的な信仰、価値観に裏打ちされた民衆自らの知性による開発である。

ジョアンナ・メーシー『サルボダヤ—仏法と開発』（めこん 一九八四年）には、サルボダヤ運動の歴史、思想、手法、組織が詳述されている。どのような宗教の民衆も、その宗教的伝統を取り戻すことよって力を得ることができると、というのが著者の結論である。『東洋の呼び声—拡がるサルボダヤ運動』（はる書房 一九九〇年）は、創始者アリヤラトネ博士自身によるサルボダヤの理論と実践に関する講演を収録したものである。現在のサルボダヤの活動は、そのホームページ（<http://www.savodaya.org>）で知ることができる。ここには、日本語による解説も出ている。

最後に、関連論文をあげておく。

◆タイ開発僧 野津幸治「仏教僧侶による地域開発—タイ国における開発僧侶の活動をめぐって」（『南方文化』第一九輯 一九九二年）／櫻井義秀「地域開発に果たす僧侶の役割とその社会的機能—東北タイの開発僧を事例に」（『宗教と社会』六号 二〇〇〇年）／鈴木規之・浦崎雅代「タイ農村における開発僧と在家者—オルターナティブな開発・発展の中での相互作用」（研究代表者・駒井洋『東南アジア上座部仏教社会に

おける社会動態と宗教意識に関する研究』平成九—一一年度科学研究費補助金研究成果報告書 二〇〇〇年）／村田翼夫「北タイの仏法に基づく農村開発の特質と意義—教育訓練プログラムの分析を中心として」（『比較・国際教育』第一〇号 二〇〇二年）／泉経武「村落仏教と開発の担い手の形成過程—タイ東北地方『開発僧』の事例研究」（『東京外大東南アジア学』第七巻 二〇〇二年）◆サルボダヤ運動 鈴木晋介「スリランカ—サルボダヤ運動における『開発』と『伝統』—現場から『開発の時代』を捉え直すための予備的考察」（『族』三〇号 一九九九年一月）／鈴木晋介「スリランカにおける仏法開発の生成とその背景—一九五〇年代末『農村回帰ムーブメント』を焦点として」（前掲『東南アジア上座部仏教社会における社会動態と宗教意識に関する研究』所収）

／野村真里「サルボダヤ運動による『目覚め』と分かち合い—スリランカの仏教に根差した内発的発展」前掲『アジアの内発的発展』所収）／古橋敬一「スリランカにおけるサルボダヤ運動とその地域開発の手法」（『名古屋学院大学大学院経済経営論集』第七号 二〇〇四年）／鈴木晋介「内発的発展論とスリランカのサルボダヤ運動」（高梨和弘編『開発経済学』慶應義塾大学出版会 二〇〇五年）

（いしい みちこ／アジア経済研究所図書館）